

令和5年3月3日

横浜市教育委員会
鯉渕 信也 教育長

自由民主党横浜市議員団・無所属の会
団長 鈴木 太郎
政調会長 黒川 勝
(印省略)

横浜市立小中学校の卒業式におけるマスクの着用に関する要望

これまで新型コロナウイルス感染症に対しては、飛散防止・感染防止の観点からマスクの着用や、距離をとる、近距離でのマスクなしの会話は避けるなど、様々な取り組みによって対策が講じられてきた。

しかし、3年間に及ぶマスクの着用は、児童・生徒や教職員・保護者にとっては、お互いの表情が確認できずに集団生活を送るなど、精神衛生上の面からも今後様々な影響が出てくる可能性もあり、よこはま自民党の政策集においてもその1ページ目に「子どもたちが口元の表情や楽しい会話でお互いに感情を読み取り、感受性が育めるよう、過度なマスクや黙食の強要はさせません。」と記載している。

今般マスクの着用については、個人の判断にゆだねることを基本とする旨、2月10日の新型コロナウイルス対策本部から考え方が示され、準備期間等も考慮して3月13日からの適用とされた。学校におけるマスク着用の考え方については4月1日から適用することとなったが、すでに横浜市教育委員会からは児童・生徒・教職員については本人の判断に委ねる、保護者や来賓については原則マスクの着用の協力を求める、合唱などの時にはマスクを着用すると方針が示されている。

わが党としてもこの趣旨については理解するものであり、マスクを着用すべきと考える児童・生徒・保護者を否定するものではない。しかし、児童生徒にとって一生に一度の晴れの舞台である卒業式については、子どもたちや保護者の思いについてはどちらの考え方にも配慮しつつ、コロナ前の日常を取り戻す取り組みに向けた第一歩とすべきと考える。

そこで、あらためて教育委員会から各学校に対して「保護者や来賓に対しては協力を求めることには変わりはないが、会話を控えるなどの配慮の上で、個人の判断でマスクを外してもらっても構わない。」との情報提供を行うとともに、例として児童生徒と記念写真を撮る際、式典終了後などに少人数でお祝いの言葉を伝え合う際、家族と校内で写真撮影などを行う際、児童生徒でお互いに写真撮影などをする際などと、具体的にマスクを外しても大丈夫な場面などを児童・生徒や保護者に対して示すべきと考える。

晴れの舞台である卒業式においては、このような場合にはマスクを外しても構わないという例示をすることは、戸惑っている児童・生徒や保護者にとっては非常に参考になるはずである。現状、教育委員会からは保護者・来賓にはマスク着用の協力を依頼しており、多くの保護者はマスクを着用して参加しなければならないと解釈していると思われる。あらためて、各学校に対してこのような場合には、みんなの笑顔とともにマスクを外して卒業を祝い合うことに問題はないと市立小・中学校に対して周知徹底を図るよう要望する。